

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076700196
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホーム 弘医荘 (ユニット名 1)
所在地	福岡県朝倉郡筑前町高上962
自己評価作成日	令和3年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の広がる一角に2ユニット併設している。ホームは木のぬくもりが感じられ、天窓や大きな窓により自然光を採光し易くしており、入居者が穏やかに過ごせる空間になっている。新型コロナウイルスの影響により、外部との交流やホーム外での活動に制限のある状況だが、ホーム周りの散策や季節のイベント、ユニット交流会を定期的に設けている。母体法人が病院であり、日々の体調管理を医師、看護師と連携を図りサポートしており、安心してホームでの生活が送れるよう健康面のケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は自然が豊かな環境で、遠くには連山が眺められるなど、四季のうつろいも感じ取りやすいところにある。母体法人の病院と同一敷地内に平屋建ての2ユニットの建物がある。渡り廊下で敷地内の事業所と行き来ができる作りであることから、毎日、看護師による体調管理がなされており、利用者や家族の安心にもつながっている。利用者一人ずつの好きなように過ごしてもらえるために日々の支援に取り組んでいる。前回の外部評価で立案した計画をこの2年間にしっかり取り組んでおり、職員が一丸となって研鑽に努めている。コロナ禍であることから、地域と関わる機会がなくなっている状況であるが、情勢が変わりだした時には交流を再開する意向である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目にできる場所に理念を掲げ、意識して実践できるようにしている。	設立時に理事長が作成した理念にそって、毎年、目標を立て支援に取り組んでいる。毎年の目標は、職員一人ずつが意見を出し、各ユニットの主任が年度初めに取りまとめている。年度末には振り返りをして通年で理念や目標を意識した取り組みがなされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出の機会を設けることができなかった。ユニットとの交流会を行っている。	コロナ禍で地域の行事などが中止となり、これまで通りの交流は行えていない。地域内の他事業所との意見交換などは電話やメールで行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域との関わり、接触はできなかった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、一堂に会する場を設けることはできなかったが、書面にて2ヶ月に一度、入居者の情報報告、資料等を送付し意見を伺い、サービスの向上に努めている。	区会長、シニアクラブ、民生委員、福祉課、利用者家族が運営推進会議に参加している。書面開催としており、資料を送付している。行事等の活動報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で、集合形式の運営推進会議を行うことはできず機会は少なかったが、福祉課、包括支援センター等に気軽に相談できる取り組みをしている。	市町村担当者とは連携を取るようになっている。制度の事などで相談がある時は電話をかけたり、先方からは空き状況の照会を受けたりしている。最近ではコロナウイルスに関する対応や注意喚起などの情報をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の勉強会を行っており、禁止と対象となる行為の周知に務め、拘束をしないケアを心掛け対応している。	職員の勉強会は年間計画が立ててあり、2～3回は身体拘束に関する内容となっている。身体拘束廃止委員会を設置しており、身体拘束の対応をしている場合は解除に向けた検討をこまめに行っている。支援場面における不適切な声かけ等についてもその都度注意をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行っており、常に「虐待とは」を考え、防止するように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて議題に取り上げ、家族の方へも理解していただけるよう学ぶ機会を設けている。	権利擁護に関する制度については、現在は家族による管理のため活用をしている事例はない。後見人についての資料を市町村に取り寄せたり、講習に来てもらったりして学習の機会を得ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来ていただき、契約内容の説明を行い、ご家族の方に気軽に疑問点など尋ねていただけるよう関係づくりに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ご家族からの要望は運営推進会議にて報告、話し合いをし職員全体で把握できるようにしている。	各ユニットの入口に意見箱を設置しているものの、これまでに意見をいただいた事例はない。家族等からいただく意見については個別の要望等が多く、その都度検討している。以前の外出が自由にできていた頃には、ご家族からお出かけ情報をもらい、日帰りバスハイクを実施したことがある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを行い、意見交換を行っている。	職員は日頃の支援などで気付いたことは主任などに言いやすい環境にある。利用者への支援場面で必要と思われる内容について伝えることが多い。利用者のコップの形状について変更を申し出たところ、全体的に水分摂取量が増加した事例がある。法人内の事業所間で人事異動をする場合がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って資格取得すると、手当等の支給がある。勤務表には希望を取り入れ作成している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	18～60歳まで性別関係なく採用。61歳以降再雇用がある。	年齢や性別については採用の要件にいれていない。希望する休暇などは取得しやすく、必要な研修については勤務扱いとして参加している。折り紙などが得意な職員が中心となって季節にあわせた飾り付けをしており、得意なことを発揮できている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	接遇の勉強会を行い、人権教育、マナー向上に努めている。	職員は、入職時に法人の看護部長から利用者の尊厳を守ってケアをするようにという話を聞く機会がある、外部で行われる人権に関する研修には法人の事務長等が参加し、伝達研修を実施している。ケアマネジャーの更新研修等でも人権に関する科目があるので資料回覧等で学習をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、スタッフセミナーや部会研修への参加は困難であったが、内部研修では年間計画を立て参加してもらい、参加が難しい職員には伝達講習を行い、職員全体の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、対面での交流は難しいが、電話やメールなどで交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時に本人の意向を聞き、入居後も不安を緩和できるように関わりの中で話を傾聴し安心していただけるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者、計画作成担当者がご家族から疑問点や要望を伺い関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容によっては多職種連携を行い、必要な支援ができるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立を妨げないよう支援し、過ごす時間を共にし関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度弘医荘だよりで近況を報告している。コロナ禍で面会が難しくなり、近況報告を電話連絡を行うことでホームの様子を知っていただき、協力を得やすい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や対面面会ではできなかったが窓越しの短時間の対面に対応し、関係が途切れないよう配慮している。	コロナ禍でもあり自由な対面面会がかなえられない状況は続いている。敷地内にある有料老人ホームに入居していた利用者に対して、知り合いが来訪することがある。携帯電話を所持している方については、友達や家族との連絡時に手伝うなど、これまでの関係継続の支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性などを把握し交流できるように雰囲気作りを行っている。関わりが困難な場合は職員が間に入り、パイプ役を担うようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係を築き、入院や退居された後の相談にもフォローできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向、また思いが変わってないか定期的に伺うようにしている。	日々の関わりから推測している。発言のない方には支援時の表情や言葉をくみ取り、また家族に聞きながら本人本位に検討している。アセスメント様式を独自で作成している。主任に集約されてくるシステムにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の申し送り、家族からの情報、アセスメントに加え、入居後も会話の中から情報収集を行いアセスメントし、適切なケアを提供できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の記録より職員間で日常生活の状態を共有し、特変などあれば必ず申し送り把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人やご家族の意向を伺い、担当者や計画作成担当者が主となり話し合いを行い、介護計画に反映している。	現状に即した計画作成をしている。今年から3ヶ月に1度のモニタリングを導入している。介護計画にモニタリングの反映ができる事で、利用者の状態に合わせた計画が作成できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を共有することで職員間で情報の共有をしながら介護計画の見直しができるように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人内の病院の利用やリハビリスタッフと連携し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外部との交流は行えていない。訪問歯科などの必要なサービスを利用し、心身のサポートを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している当法人の病院に定期受診している。他の医療機関等へも通院可能であり、本人の病状に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。	併設の病院受診を職員対応で行い、眼科・精神科は外部の医療機関が利用できる。歯科は訪問診療を利用し、他科受診は家族に連れて行ってもらっている。救急は職員が付き添う。看護部長が毎日訪問しバイタル測定を行い、相談をする事ができる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している看護職員に報告し、指示を仰ぐようにしている。またご家族への報告、相談を行い意向に沿った受診が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と情報交換を行い、現状把握と相談を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際に終末期のケアについてご家族の希望を伺い、当法人内の病院に入院された場合には主治医を交えて説明ができるよう取り組んでいる。	口からの食事ができることをグループホームでの生活の前提としている。終末期は病院での対応をお願いしている。看取りはしていない。最期を自宅で過ごしたい場合は往診対応が可能な医療機関への橋渡しをする体制がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、その状況に応じ対応できるようにしている。また研修などに参加し緊急時に対応できる能力を身に付けるよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内での訓練を実施している。消防訓練については消防署の方と勉強会を行っている。	昼間と夜間の想定で春と秋に訓練をしている。風水害時の対応については勉強会の際に机上訓練をしている。マニュアルはある。備蓄の食料等は法人の厨房で一括管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇の勉強会を行い正しい対応の仕方、言葉かけを身につけるようにしている。1人ひとりの人格を尊重する対応に努めている。	入浴時やトイレ等の対応は気を付けている。拒否のある方は、声掛けを職員で話し合い検討し支援につなげている。接遇委員を中心に、接遇に関する目標を2ヶ月に一度立案して皆で取り組んでいる。職員には業務上知りえたことを他言しないことを徹底している。セルフチェック表の記入をしており、日頃の支援内容を振り返る機会を設けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴する姿勢で気軽に職員に話せるような状況を作り、本人決定できるような対応に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムに沿ったケアを行いQOLの向上に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍ではあったが移動理美容室の利用ができ、起床時は身だしなみを整えて頂けるよう準備したりお手伝いを行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月企画している調理日には利用者の希望や季節のものを取り入れ、調理の手伝いや準備を一緒に行っている。	法人の病院厨房に取りに行き、グループホームで配膳をしている。季節の食事に対応しており、正月や敬老会等は一段と豪華になる。手刻みやミキサー食の対応もしている。月に2、3回利用者に聞き取り、職員が食事の準備をしており、うどんが人気メニューである。通所事業所と合同でおこなうマグロの解体ショーは好評で、この日は刺身を提供している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を提供し、嚥下状態に合わせた形態でバランスの良い食事を召し上がって頂いている。水分補給は決められた時間以外にも行っており、脱水にならないよう支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしていただくようにしている。本人が行うことができない場合には介助し、義歯を使用されている方は夕食後には消毒を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者の排泄のタイミングを把握し、声掛けや誘導を行っている。車いすの方も介助を行い出来る限りトイレにて排泄していただくよう支援している。	出来る限りトイレでの排泄ができるように、適切な声掛けを行うことで、排せつの失敗を少なくしている。支援によりパットの利用数が減った事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分補給やマッサージ、運動で排便ケアを行っている。緩下剤や座薬などを使用し排便コントロールを行うこともある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者からの希望があれば対応し気分良くゆっくりとした気持ちで入浴できるよう声かけし、意向を聞き入れながら支援している。	週に2回は入浴できるようにしている。午前に入れない場合は午後にするなど、その時々で対応している。利用者の好みに合わせて入浴剤を使用している。好みのボディソープやシャンプーの持ち込みは可能である。入浴後の保湿剤を塗るようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者1人ひとりの様子観察しながら個別に臥床、休息できる時間を設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり手帳を利用し1人ひとりの服薬内容を把握するようにしている。副作用や用法にも注意し症状の変化に気づくことができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを実感していただけるよう本人が好まれるお手伝いをして頂いたり、歌が好きの方、手作業が好きの方など個人の好みにあった対応をするように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援ができなかったが、ホームの周りを散策したり、テラスでお茶を飲んだり外にふれることができるよう支援している。	各ユニットの玄関は、隣接する有料老人ホームや病院が渡り廊下でつながっている。天気の良い日はグラウンドに野球を見に行くこともあり、外気に触れる機会を作るようにしている。以前は長めのドライブや季節の花見に行ったり、外食にも行ったりしていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ち込まれている方はいないがご家族の方やご本人の意向があれば対応は可能。使用機会はほとんどない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、又は本人から希望があれば電話を繋ぎ通話ができるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りを利用者と作成し飾っている。落ち着いた空間作りを心掛けソファを設置しくつろいでもらえるような支援を行っている。	天窓からの採光により、全体的に明るい。季節を感じ取れる作成物や行事の写真が、利用者の見やすい位置に提示されている。施設内は木造で色彩も落ち着いており、温かみがある。廊下や居室への目印を大きくして見やすい工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話室のソファを自由に利用して頂けるようにし、交流スペースを設けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方が馴染みのあるものや必要なものを用意される。ご家族が持参された物や写真を飾り、居心地の良い居室作りに努めている。	ベッド、エアコン、カーテンは備え付けとなっている。畳を好まれる方には対応しており、これまでの生活習慣などへの配慮がなされている。毎朝掃除と換気をしており、臭気がこもらないようにしている。自宅で利用していたタンス・写真やカレンダーを飾っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度な介護は行わず、本人のできることには見守り、声掛けをし自立支援を行うよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076700196
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホーム 弘医荘 (ユニット名 2)
所在地	福岡県朝倉郡筑前町高上962
自己評価作成日	令和3年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の広がる一角に2ユニット併設している。ホームは木のぬくもりが感じられ、天窓や大きな窓により自然光を採光し易くしており、入居者が穏やかに過ごせる空間になっている。新型コロナウイルスの影響により、外部との交流やホーム外での活動に制限のある状況だが、ホーム周りの散策や季節のイベント、ユニット交流会を定期的に設けている。母体法人が病院であり、日々の体調管理を医師、看護師と連携を図りサポートしており、安心してホームでの生活が送れるよう健康面のケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				